

(第3種郵便物認可)

汚染深刻化 インドネシア

プラごみ輸入禁止

大阪で開催される主要20カ国・地域（G20）首脳会議に出席するインドネシアのジョコ・ウィドド大統領が25日、毎日新聞のインタビューに応じた。インドネシアを含む東南アジア諸国では先進国から持ち込まれるごみが問題化しているが、ジョコ氏は「プラスチックごみの輸入を禁止する」と述べ、厳格に対処する姿勢を示した。これまで明確な規定はなかったが、ジョコ氏は25日午前、関係閣僚に輸入禁止を指示。その内容をインタビューで初めて明かした。（9面に関連記事）

ジョコ大統領明言

海洋生物など生態系へプラごみの排出量が世界の影響が懸念される海洋第2位（2015年）で、プラスチックごみ問題ジョコ氏は「国内のプラは、G20サミットでも主要議題の一つとなっか、輸入を続けるのはおろ。インドネシアは海洋かしい」と強調した。



毎日新聞のインタビューに応じるインドネシアのジョコ大統領

海洋プラごみについて先進国から東南アジアに輸出されたものが、適切な処理がなされないまま海に流出するなどの問題が指摘されている。東南アジア各国では「先進国のごみ捨て場ではない」と、ごみ輸出そのものへの非難が高まっている。インドネシアも今月、

リサイクル可能な古紙と偽って持ち込まれたプラスチックなどの家庭ごみを米国に送り返している。ジョコ氏は「観光資源の美しい浜辺にごみが散乱すれば、経済にも影響する」と海洋プラごみ汚染への危機感をあらわにした。自国のプラごみ対

策についても「今後3年間でごみ焼却発電を10都市に導入したい」と明かすなど、積極的に取り組む姿勢を見せた。またジョコ氏は「ごみ問題の解決につながる技術があれば、日本と相互協力していきたい」とも述べ、環境分野での技術支援や投資への期待感を示した。ジャカルタでは日本の政府開発援助（ODA）を活用した都市高速鉄道（MRT）の第1期区間が3月に開業し、第2期区間の建設が進む。ジョコ氏はMRTを高く評価したうえで「東西線の建設を来年にも始めたい。10年間で2300キロを建設できると試算している」と期待した。【ジャカルタ武内彩、写真も】

新なポレ総総年告社人定◇代代代取同同同同同同同同